

### （３）砂川地区の課題

平成27年8月、道央自動車道砂川SAにスマートインターチェンジが開通しましたが、砂川市内へ観光客を誘引するための観光資源をどう作っていくかが課題となっていました。

また、石狩川の洪水調節のために平成7年に完成した砂川遊水地は、平常時は水上アクティビティや釣り、散歩等を楽しむオアシスパークとして利用され、美しい景観、広大な水辺空間等の魅力を有しています。

そこで、地元関係者・砂川市・河川管理者からなる「オアシスパークからゆめまちづくり協議会設立準備会」が平成28年1月に発足し、砂川オアシスパークを観光情報の拠点、休憩ポイント等として利活用するため、協議・検討が進められてきました。

平成30年1月、より具体的な事業計画の策定と実践のために協議会が設立され、市民及び関係者の期待も高まっています。



すながわ癒やしスポット&マップ  
表紙(砂川遊水地)

## 7.1.2 河川等の利用状況

「砂川遊水地」は、「砂川オアシス<sup>くだらんかい</sup>パーク」として親しまれ、サイクリングやヨット、水上バイク、釣りなどに利用されるとともに、「石狩川下<sup>くだらんかい</sup>覧櫓川下り大会」、「ラブ・リバー砂川夏まつり」などのイベントが開催される水辺のレクリエーションエリアとなっています。



遊水地



サイクリング



石狩川下覧櫓



ウォーターヒルズスクエア



写真提供（一社）石狩川振興財団

ワカサギ釣り



砂川夏まつり 砂川納涼花火大会

### 7.1.3 地域開発の状況

砂川市の令和7年1月1日現在の人口は約1.5万人であり、近年、若干の減少傾向にあります。

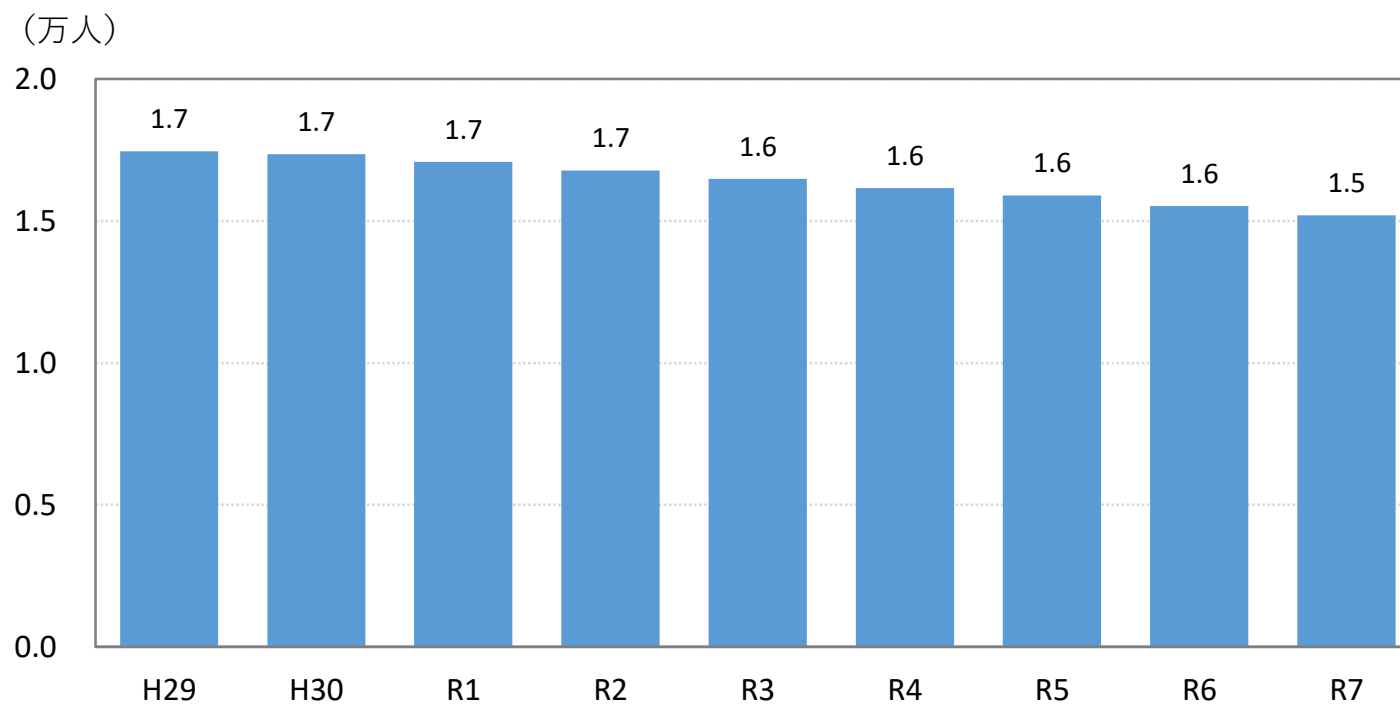


図 砂川市における人口の推移

資料: 住民基本台帳(各年1月1日)

## 7. 1. 4 地域の協力体制

砂川遊水地では、従来から市民団体がごみ拾いを行ったり、あじさいの植栽を行うなど、河川愛護活動が続けられています。

流域自治体等で構成される地元期成会「北海道河川環境整備促進協議会」から、「河川等が連続した身近な公共空間・河川水面を地域固有の河川の特徴を生かして利活用する、個性ある“まちづくり”に対する施策」及び「地域の特徴・魅力を高める水辺の整備」の積極的な推進が要望されています。

平成28年1月に国、砂川市、NPO、地元住民などで構成する「オアシスパークからゆめまちづくり協議会 設立準備会」が設立され、かわまちづくりに関するワークショップで幅広い議論が行われるとともに、平成30年1月には「オアシスパークからゆめまちづくり協議会」が設立され、かわまちづくりを推進する環境が整っています。

また、平成29年8月及び11月に、先例地の視察やウォーターヒルズスクエアを活用した物販、フリーマーケットなど新たな利活用を目指す社会実験の取組が実施され、これらの社会実験の結果を踏まえ、令和2年11月に都市・地域再生等利用区域の指定がなされました。



砂川遊水地での清掃活動  
(平成29年5月、事務局：石狩川下覧権)



オアシスパークから  
ゆめまちづくり協議会  
設立準備会



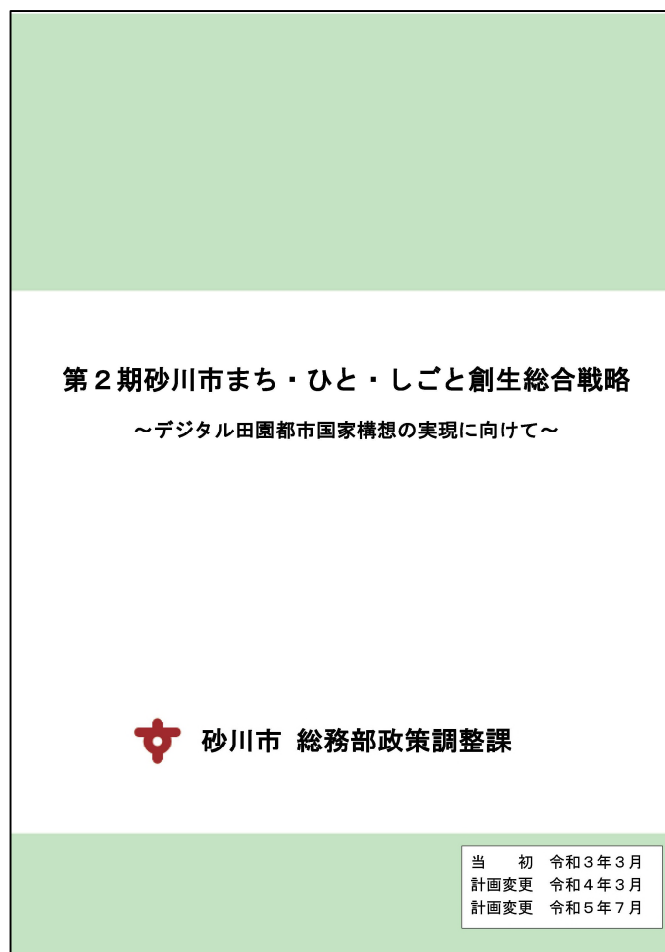
ウォーターヒルズスクエアの  
夜間解放・物販の状況  
(平成29年8月社会実験)



ウォーターヒルズスクエアでの  
フリーマーケットの状況  
(平成29年11月社会実験)

### 7.1.5 関連事業との整合

「第2期砂川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標のうち「新しい人の流れをつくる」を実現するために、行政、地域及び関係団体が連携して砂川オアシスパークの更なる利活用を通してまちの活性化を図ります。



出典：「第2期砂川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」  
(令和3年3月策定、令和5年7月計画変更)

## 7.2 事業概要及び進捗状況

### (1) 事業の河川整備計画等の位置付け

当該整備については、「石狩川(下流)河川整備計画」(平成19年9月策定)において、『生活の基盤や歴史、文化、風土を形成してきた石狩川の恵みを活かしつつ、自然とのふれあい、釣りやスポーツ、船の活用などの河川利用、環境学習の場等としての整備・保全を図る。その際、高齢者をはじめとして誰もが安心して親しめるようにするとともに、沿川の自治体が立案する地域計画等との連携・調整を図り、河川利用に関する多様なニーズを十分反映した河川整備を推進する。』と位置付けられています。

### (2) 事業の経緯

平成30年1月に国、砂川市、NPO、地元住民などで構成する「オアシスパークからゆめまちづくり協議会」が設立され、具体的な事業計画の策定と実践のための体制がつくられ、「かわまちづくり支援制度」を活用した「砂川地区かわまちづくり」として国土交通省に申請し、平成30年3月26日に登録されました。その後、新たな利活用を目指す社会実験の取組が実施され令和2年11月に都市・地域再生等利用区域の指定が決定しました。

### (3) 事業の目的

本事業は、自治体、協議会及び国が連携し、「砂川遊水地」を、より利便性及び安全性の高い親水レクリエーション空間として整備するものです。

国道12号沿線の砂川市街地中心部の商業施設等から至近の距離にある「砂川遊水地」について、「すながわスイートロード」など地域活性化の取組と連携した利活用を推進し、交流人口の増加、地域活性化等を目指しています。



砂川遊水地の全景

#### (4) 主な整備の内容

自治体、協議会、国が連携して、多目的広場の基盤整備や砂川遊水地の水辺整備などを行っています。

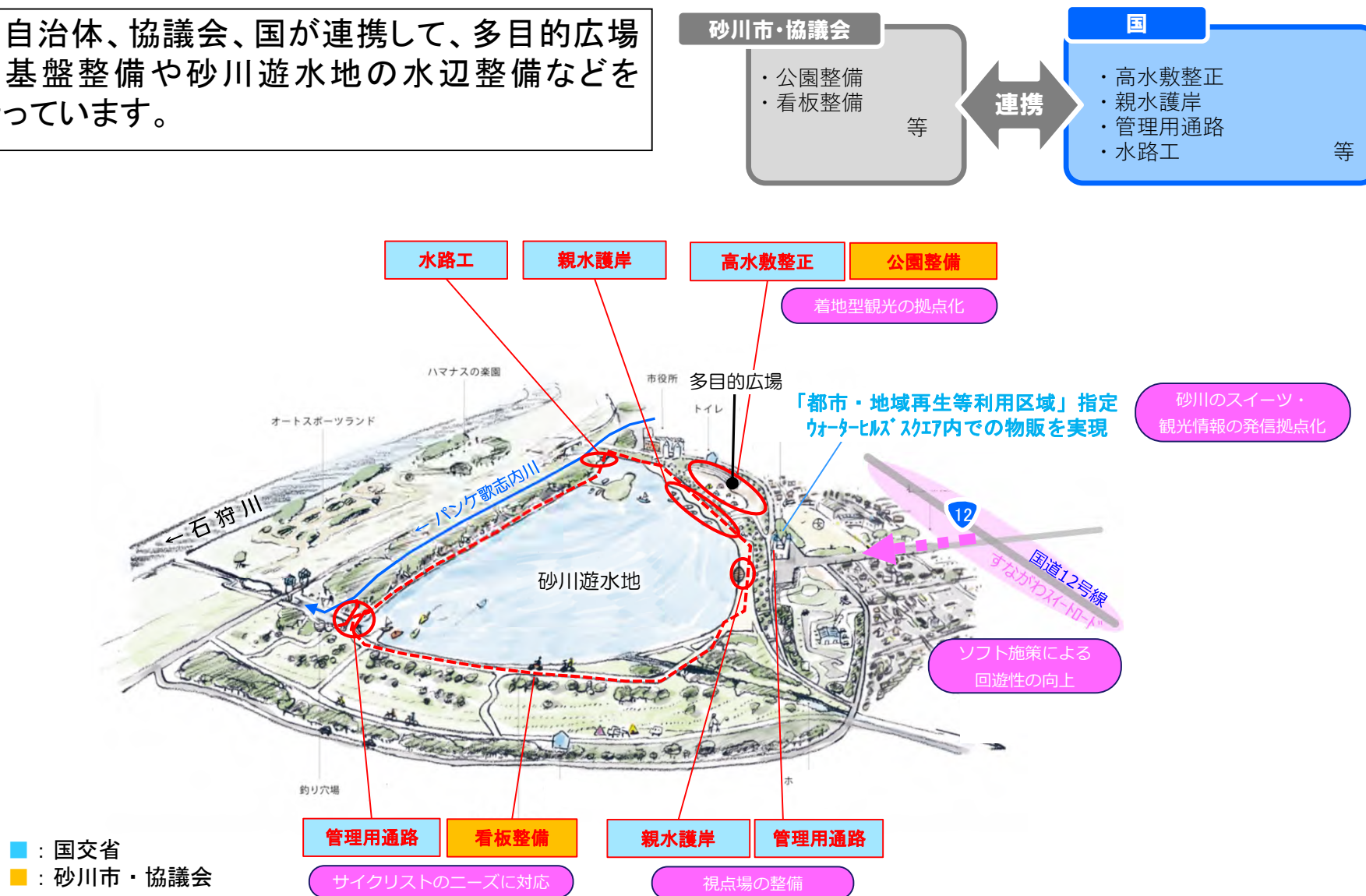


図 整備箇所

### ■高水敷整正

- ・遊水地北側の広場を、イベントやキャンプなど多目的利用が可能な場として整備しています。



### ■管理用通路の整備

- ・湖面沿いの管理用通路が排水門部分で途切れているため、管理用通路を橋で接続し、周遊コースを設定しています。
- ・砂川遊水地の周囲をめぐるサイクリングルートやフットパスコースとして活用しています。



### ■親水護岸

- ・ウォーターヒルズスクエア正面の遊水地湖畔に、視点場と船着場を兼ねた親水護岸を整備し、広大で来訪者が分散しがちなオアシスパークにおけるランドマークとします。



- ・多目的広場からの動線上の水辺に、船着場を兼ねた緩傾斜の親水護岸を整備しています。



### ■水路工

- ・遊水地(湖内)北側は流入河川がなく、水が滞留し、アオコの発生や水草の繁茂が見られることから、隣接するパンケ歌志内川から導水し、水の流れを創出するための水路工を整備しています。
- ・アオコや水草の発生を抑え、快適な水面利用環境を提供しています。



## (5) 期待される効果

親水護岸の整備や多目的広場の基盤整備等により、地域の住民及び砂川市を訪れる観光客が、水上及び水辺での様々なレクリエーション活動を、より安全、快適に行えるようになります。

また、「すながわスイートロード」など地域活性化の取組と連携することで、町の中心と水辺との人の流れを作り出し、地域の観光振興や地域活性化が期待されます。

砂川遊水地の利用者数は順調に増加しており、令和6年度には約3.4万人の利用がありました。

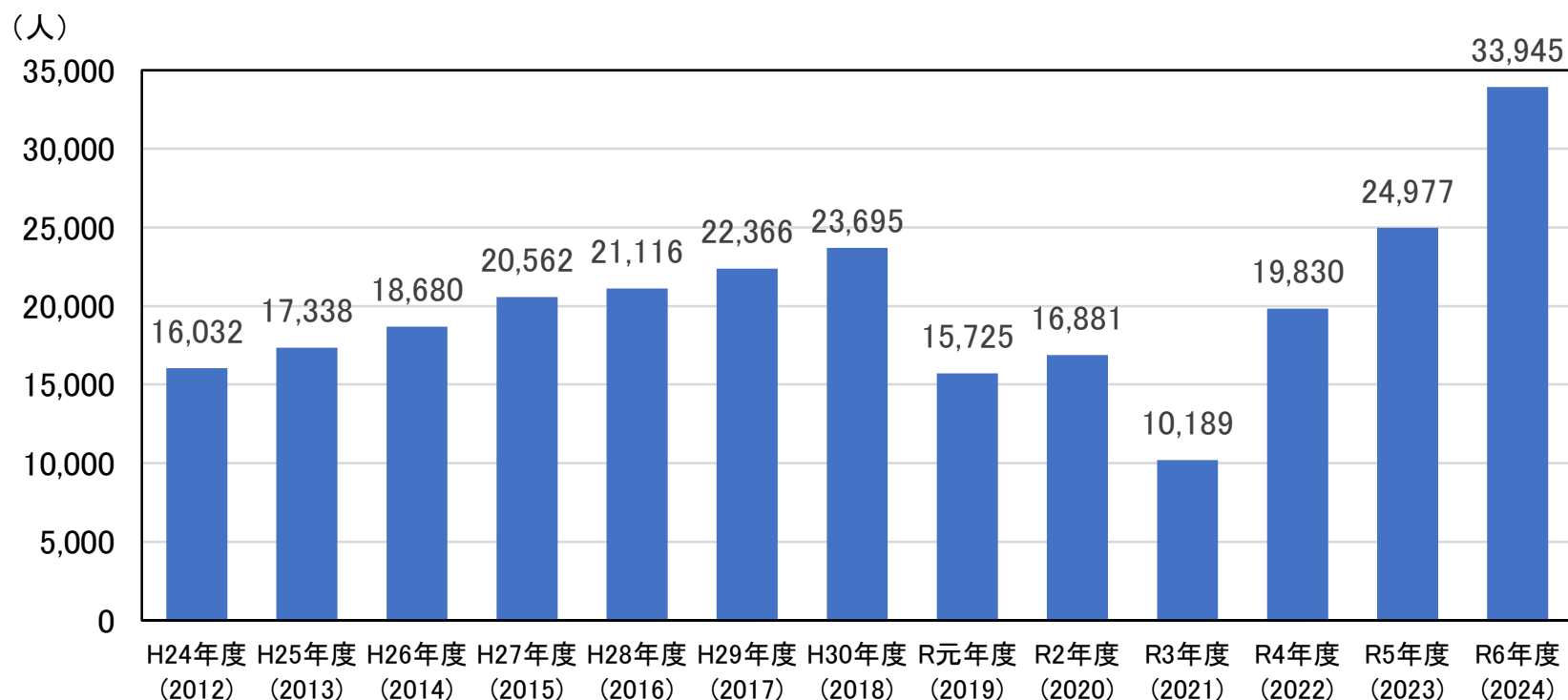


図 砂川遊水地利用者数(ウォーターヒルズスクエア入館者数)の推移

注) 令和元年度以降、新型コロナウイルス感染者数の拡大を受けた外出自粛や休業要請、緊急事態宣言等の施策実施により、令和元年度以降の観光入込客数が大きく減少したが、令和4年度は回復してきている。



## 8. 恵庭かわまちづくりの概要

### 8. 1 事業を巡る社会経済情勢の変化

#### 8. 1. 1 河川環境を取り巻く状況

##### (1) 事業実施地域の概要

恵庭市は、北海道の空の玄関・新千歳空港と道都・札幌市との中間の交通の要所に位置するとともに、恵庭岳から流れ、サケも遡上・産卵する漁川が流れる自然あふれるまちです。

事業箇所である年間利用者100万人の「道と川の駅 花ロードえにわ」と近接する漁川の河川空間は、散策、ジョギングやサイクリングなどに利用され、市内外から多くの人を訪れる水辺のレクリエーションエリアとなっています。



漁川  
沿河市町村人口（恵庭市）：約7万人  
出典：住民基本台帳（令和7年1月1日現在）



図 恵庭かわまちづくり対象地域及び周辺状況



道と川の駅  
花ロードえにわ

## (2) 地域の現状と課題

### 第2期恵庭市総合戦略

#### ガーデンシティプラン

～日本のガーデンシティ（田園都市）がここにある～

当初令和2年3月

恵庭市

恵庭市制施行50周年記念

未来へつなぐ 花のまち 恵庭



恵庭市は、水と緑豊かな石狩平野の平坦な地形の中、「空の玄関・新千歳空港」と「道都・札幌市」の中間に位置し、国道36号線やJR4駅を有するなど、優れた立地環境を有しています。

一方、人口減少や少子高齢化が急速に進む社会情勢においても高い持続性を確保するため、恵庭市のこれからのまちづくりの基本的な進め方として、「第2期恵庭市総合戦略」(令和2年3月)が策定されています。

総合戦略は、

- ・人がつながり人口減少に負けない魅力あるまちづくり
- ・安全安心に住み続けたいくなるまちづくり
- ・恵庭らしさを活かした魅力あるまちづくり
- ・希望を持って子育てしたくなるまちづくり

を基本目標とし、施策の一つとして「新ガーデンデザインプロジェクトの推進」を行うこととしています。

出典:「第2期恵庭市総合戦略」(令和2年3月策定)

### (3) 恵庭地区の課題

恵庭市では、「恵庭市総合戦略」に基づき、職・住・観光機能の拡充のため、「ガーデンデザインプロジェクト」を推進しており、事業箇所近接する道と川の駅周辺を「花のビレッジ」と位置付け、花の拠点(公園)の整備及び新住宅団地建設を進めています。

事業箇所である漁川の河川空間は、隣接する市街地で展開される花の拠点及び新住宅団地と一体となった新たな「恵庭市の交流観光の拠点」として、市民及び観光客が、気軽に自然と触れ合い、多様なレクリエーションを楽しむ過ごすことができる魅力あるレクリエーションエリアとしての役割を担うことが期待されており、河川空間へのアクセス向上、親水機能の向上等が課題となっています。

## 8.1.2 河川等の利用状況

事業箇所近接する「道と川の駅 花ロードえにわ」は、年間約100万人の利用者があり、えにわマルシェなど様々なイベントが実施されています。

また、「道と川の駅 花ロードえにわ」に隣接して水遊びのできる多目的広場ウォーターガーデンが設置されており、子供や家族連れでにぎわっています。

事業箇所である漁川の河川空間は、散策、ジョギングやサイクリングなどに利用され、市内外から多くの人を訪れる水辺のレクリエーションエリアとなっています。



道と川の駅 花ロードえにわ



えにわマルシェ



ウォーターガーデン



散策



サイクリング

### 8. 1. 3 地域開発の状況

恵庭市の令和7年1月1日現在の人口は約7万人であり、近年、大きな変化はありません。

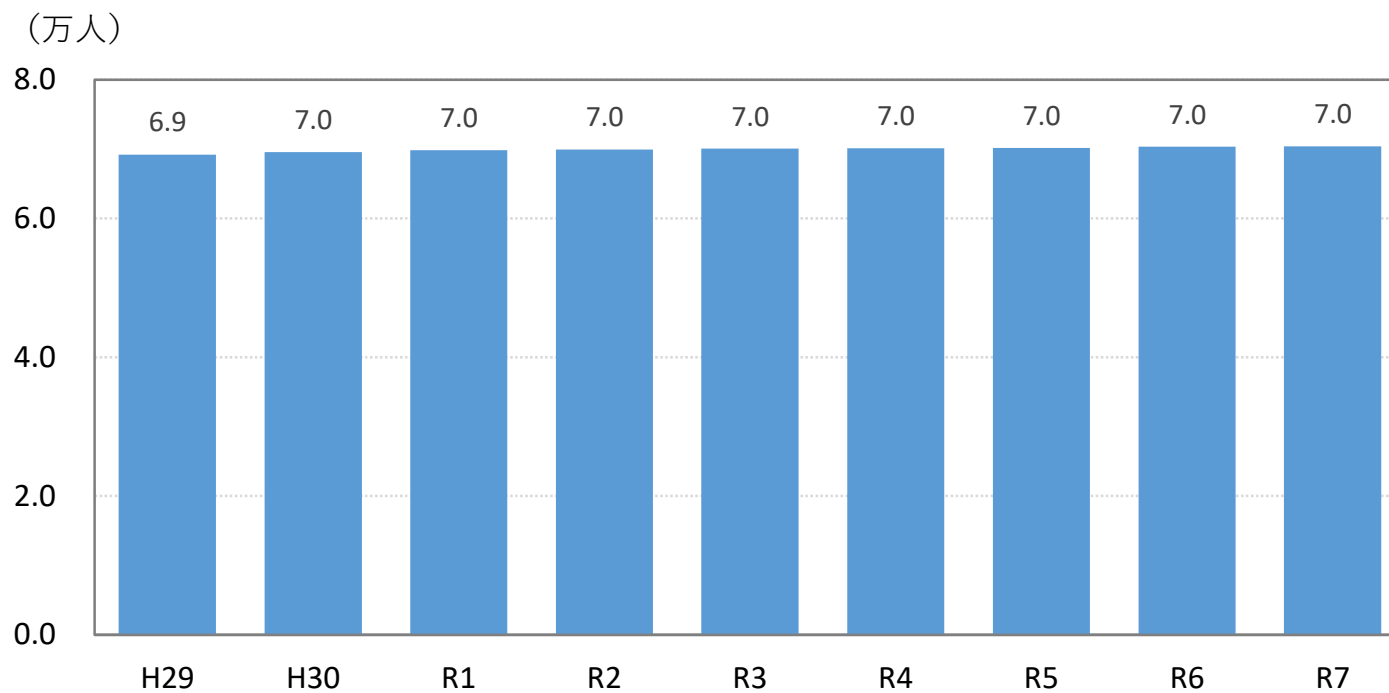


図 恵庭市における人口の推移

資料:住民基本台帳(各年1月1日)

#### 8. 1. 4 地域の協力体制

恵庭市と関係団体、地域住民などで構成する「恵庭水と緑のまちづくり審議会」との協議を踏まえ、「ガーデンデザインプロジェクト」に沿ったかわまちづくりを計画しています。

また、「恵庭市観光推進協議会」、「恵庭一万本桜植樹市民の会」、「恵庭河川愛護会」などの恵庭市のまちづくりや観光推進の関係機関とも連携し、地域で一体となった体制で事業を進めています。漁川では、従来から市民団体がごみ拾いや植樹・植栽活動を行うなど、河川愛護活動が続けられています。

令和5年6月にかわまちづくりの事業範囲の一部を含むエリアが「花の拠点かわゾーン地区」として、都市・地域再生等利用区域の指定がなされました。



水と緑のまちづくり審議会



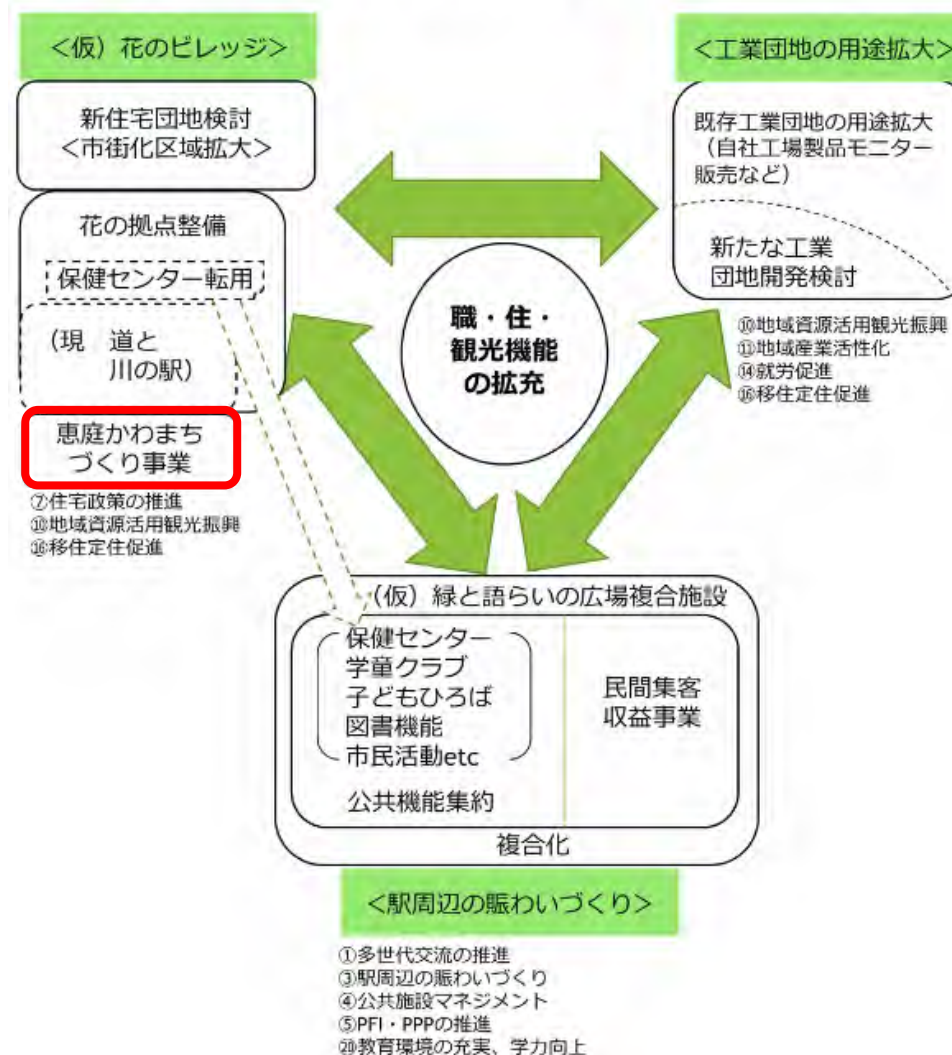
市民団体による河川清掃活動

## 8.1.5 関連事業との整合

「恵庭市総合戦略」に基づき、恵庭市では「ガーデンデザインプロジェクト」として職・住・観光機能の拡充を推進しており、花のビレッジ（現はなふる）、駅周辺の賑わいづくり、工業団地の用途拡大を機能的、複合的に推進すること等により、田園と都市の融合を目指しています。

恵庭かわまちづくりは、「花のビレッジ」構想の施策の一つに位置付けられており、事業箇所隣接する「花の拠点（公園）」及び「松園地区新住宅団地（スマートタウン）」と連携し、魅力的な河川空間の整備を図り、新しい「恵庭市の交流観光の拠点」の創出を目指しています。

### ガーデンデザインプロジェクトの推進



出典:「恵庭総合戦略」

## 8. 2 事業概要及び進捗状況

### (1) 事業の河川整備計画等の位置付け

当該整備については、「石狩川水系千歳川河川整備計画」(平成17年4月策定、平成27年3月変更)において「河川空間の利用に関する目標」として、『河川空間は、人々が川や水辺とふれあい親しめる場として利用されるよう関係機関と連携し、その整備に努める。』と位置付けられています。

### (2) 事業の経緯

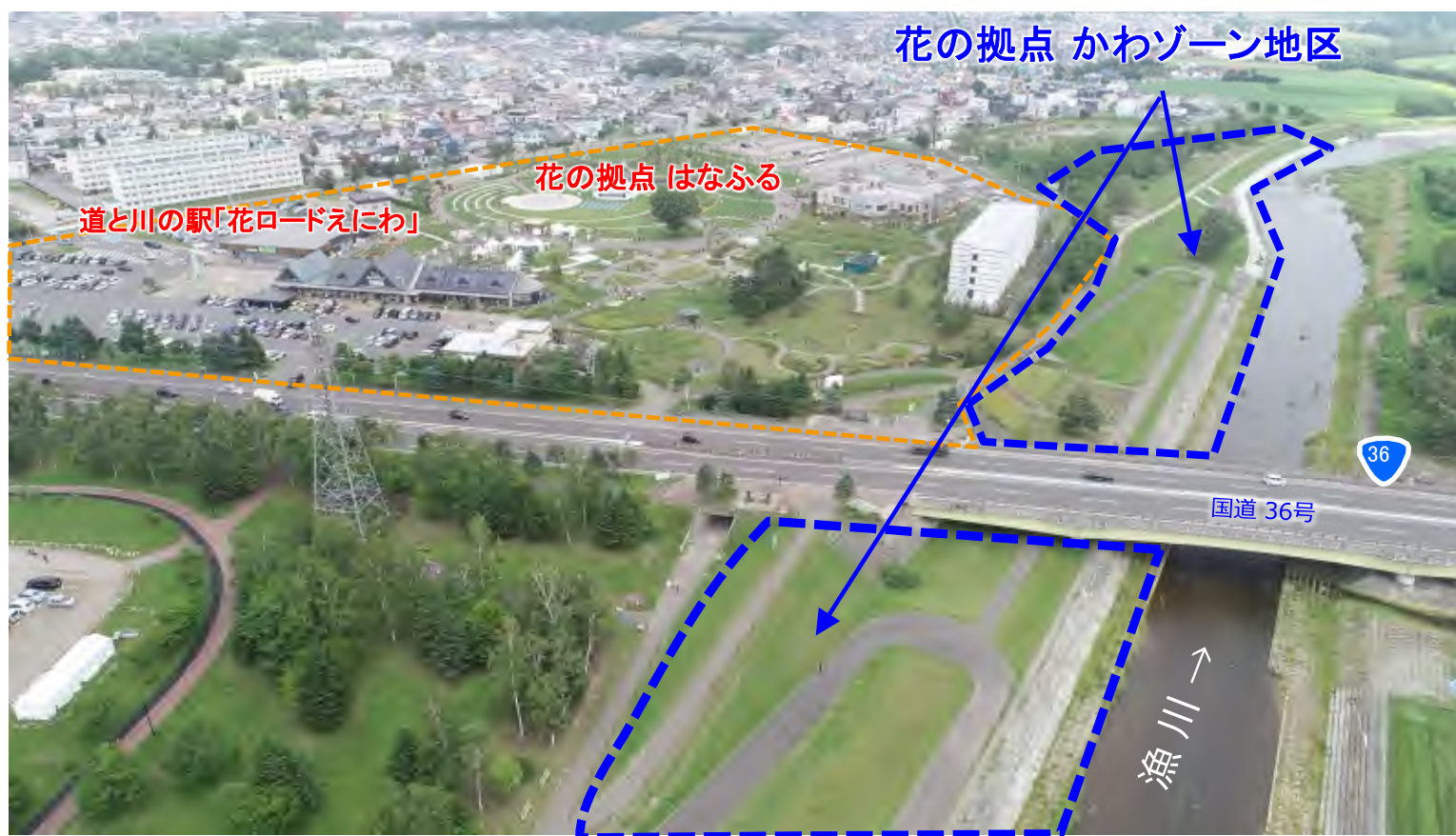
恵庭市では、「恵庭水と緑のまちづくり審議会」との協議を踏まえ、「かわまちづくり支援制度」を活用した「恵庭かわまちづくり」として国土交通省に申請し、平成30年3月26日に登録されました。

また、令和5年5月に、国、恵庭市、地元事業者等で構成する「花の拠点かわゾーン地区利用調整協議会」が設立され、漁川の河川空間を活用した地域の活性化を持続的かつ継続的に検討し、調整を図っています。その後、同協議会における協議内容を踏まえ、令和5年6月に「花の拠点かわゾーン地区」の都市・地域再生等利用区域の指定がなされました。

### (3) 事業の目的

本事業は、恵庭市と国が連携し、漁川へのアクセス向上のための管理用通路及び親水施設の整備を行うものです。

隣接する花の拠点(公園緑地)整備及び民間による新住宅団地の計画と連携して、より魅力的な水辺空間を創造し、交流人口の増加、居住環境の向上等を目指しています。

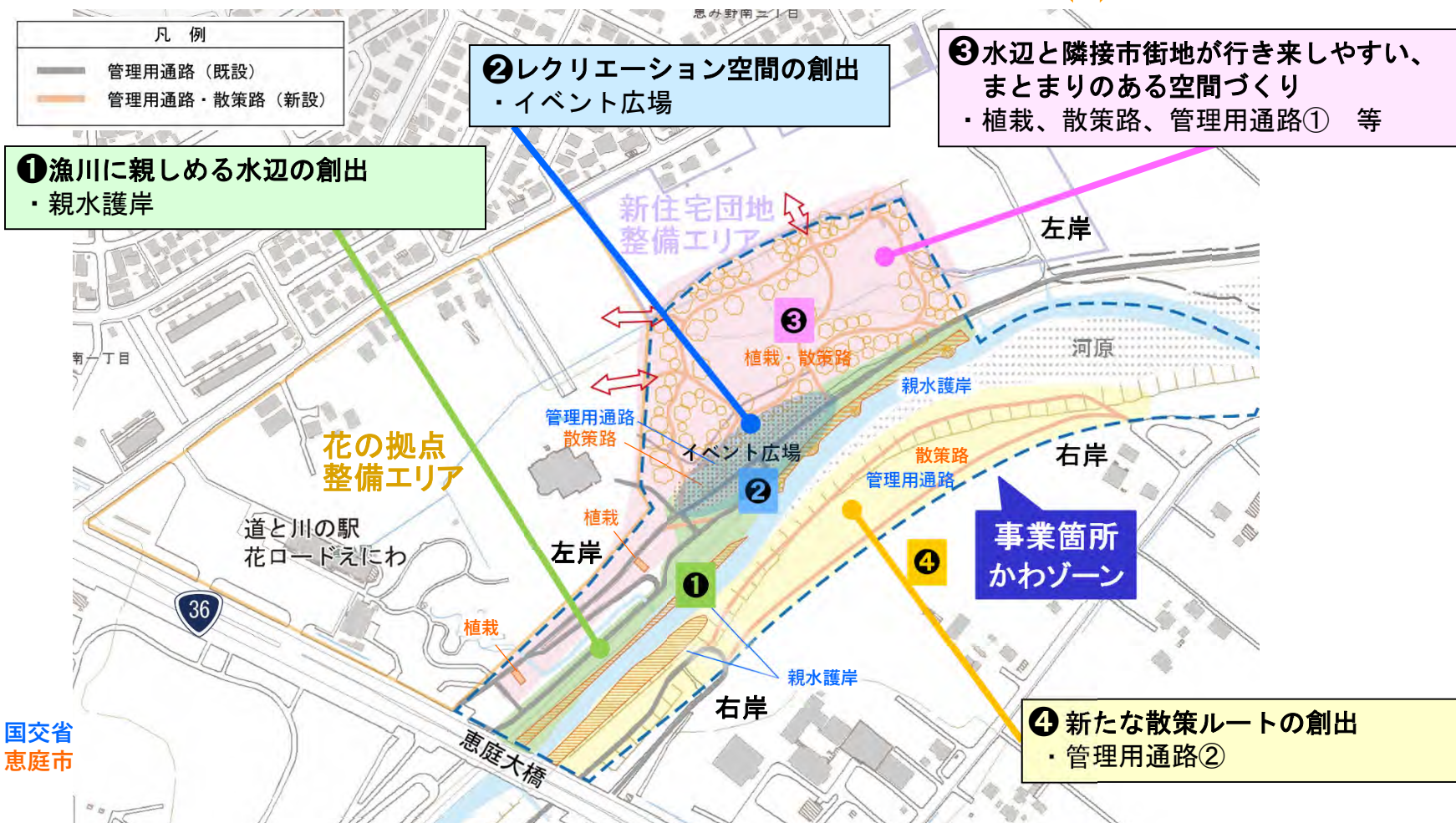
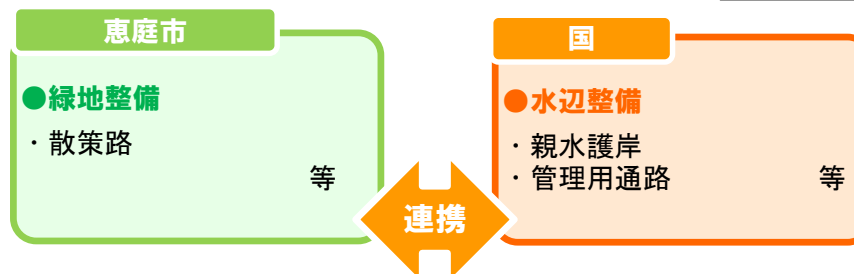


※はなふる 2020年11月11日オープン

事業箇所周辺

## (4) 整備の内容

自治体と国が連携して、親水護岸など水辺整備や散策路、植栽など公園緑地の整備を行います。



青文字：国交省  
橙文字：恵庭市

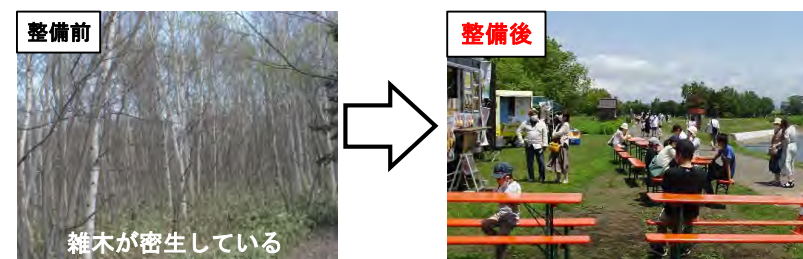
## ① 漁川に親しめる水辺の創出

- ・親水護岸を整備して水際に近づきやすくし、水生生物観察や環境学習など、新たに、水際での安全な親水活動の場を創出しています。



## ② レクリエーション空間の創出

- ・隣接する「花ロードえにわ」の各種イベントとの連携を可能にするイベント広場の基盤を整備し、新たに、水辺のイベント空間を創出しています。



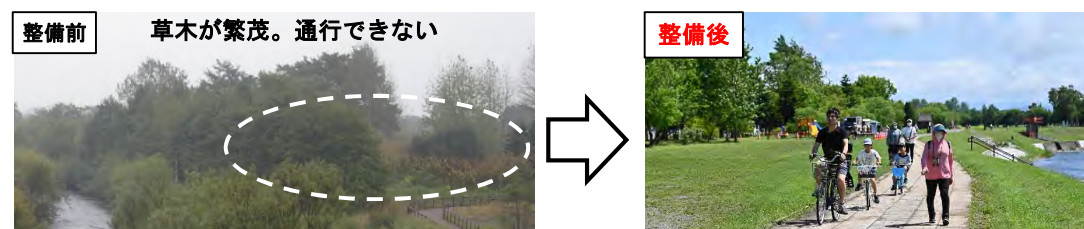
## ③ 水辺と隣接市街地が行き来しやすい、まとまりのある空間づくり

- ・隣接する市街地と漁川の境界部分に植栽、散策路、管理用通路などを整備し、隣接する市街地と水辺が、行き来しやすく、まとまりのある空間を創出しています。



## ④ 新たな散策ルートへの創出

- ・右岸側に、新たに管理用通路を整備し、水辺の散策、ジョギング、ウォーキングなどができる新たなレクリエーションの場を創出しています。



## (5) 期待される効果

この取組により、新たな親水エリアの創出や、これまでできなかった水際での水生生物観察などが可能になるとともに、隣接市街地と一体的な魅力的な水辺空間が形成されます。

近年、新型コロナウイルス拡大の影響により観光市場全体が落ち込んでいるなかで、令和2年3月にリニューアルオープンした「道と川の駅 花ロードえにわ」の利用者数が100万人以上を維持しており、併設された直売所の売上げが大きく増加しているなど、集客力の高い施設となっています。

これらの観光施設や、周辺で多数展開されているイベントとの連携により、地域の交流人口の増加や観光振興など地域活性化が期待されます。



観光施設利用状況



道の駅周辺でのイベント開催状況  
第39回全国都市緑化北海道フェアin恵庭  
ガーデンフェスタ北海道2022  
(令和4年6月25日～7月24日開催)

## 8.3 事業の進捗の見込み

### 8.3.1 今後の事業スケジュール

恵庭かわまちづくりについては、令和元年度から事業を実施中です。

直轄事業費約4.3億円※のうち、令和7年度末時点で約4.0億円の事業を実施しており、事業の進捗率は約95%です。

※その他費用として、自治体事業費約0.2億円、国の河川改修費等約0.6億円を含め、総事業費は約5.0億円を予定しています。

令和8年度以降の事業

・国：モニタリング

上記事業については引き続き、恵庭市をはじめ地域の方々や関係機関と連携・調整を図りながら計画的に実施します。

表 事業の進捗状況

| 実施者   | 工 種    | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 |
|-------|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 河川管理者 | 計画・設計  | ■  | ■  | ■  | ■  |    |    |    |    |    |     |
|       | 親水護岸等  |    | ■  | ■  | ■  |    |    |    |    |    |     |
|       | 管理用通路① |    | ■  | ■  | ■  |    |    |    |    |    |     |
|       | 管理用通路② |    |    |    | ■  | ■  |    |    |    |    |     |
|       | モニタリング |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
| 恵庭市   | 散策路等   | ■  | ■  |    |    |    |    |    |    |    |     |

■ 工事等期間 ■ ■ ■ モニタリング期間